

武蔵丸

引退

史上6位優勝12回：左手首回復遅れ無念

日刊スポーツ

NIKKAN SPORTS

11月15日 土曜日
2003年(平成15年)
PM11:50



94年名古屋場所、15戦全勝で初優勝し、賜杯を手に喜びの武蔵丸(写真下)。99年7月、昇進後初の名古屋場所所で雷霆型の土俵入りを披露する武蔵丸(共同)



3勝4敗となり支度部屋で目を閉じ、まげを直す横綱武蔵丸(共同)



93年6月、故郷のハワイに到着。曙(左)、小錦(中央)とワイキキビーチを散歩する武蔵丸(写真下)。99年5月、横綱昇進を伝える使者に口上を述べる武蔵丸(中央共同)



大相撲史上2人目の外国出身横綱、武蔵丸光洋(32回武蔵丸が九州場所7日目の15日、現役引退を決めた。
同日夜、福岡県宗像市の武蔵川部屋宿舎で武蔵丸と相談した師匠の武蔵川親方(元横綱三重ノ海)が「本人が」引退を決定しました。一生懸命やって何とか今場所を乗り切ろうとしたが、横綱としての使命を果たせないと判断した」と明らかにした。
67人目横綱の武蔵丸は左手首痛の回復が遅れ、先場所まで6場所連続で休場。進退を懸けて臨んだ今場所だったが、この日の土佐ノ海戦も敗れて4敗目を喫した。武蔵丸は1989年秋場所に初土俵。99年夏場所後に曙に次ぐ2人目の外国出身横綱となった。史上最重量横綱で、体重は最高237キロに達した。史上6位の優勝12回をマーク。幕内勝利は史上4位の706勝。今後は「武蔵丸親方」として武蔵川部屋で後進の指導に当たる。